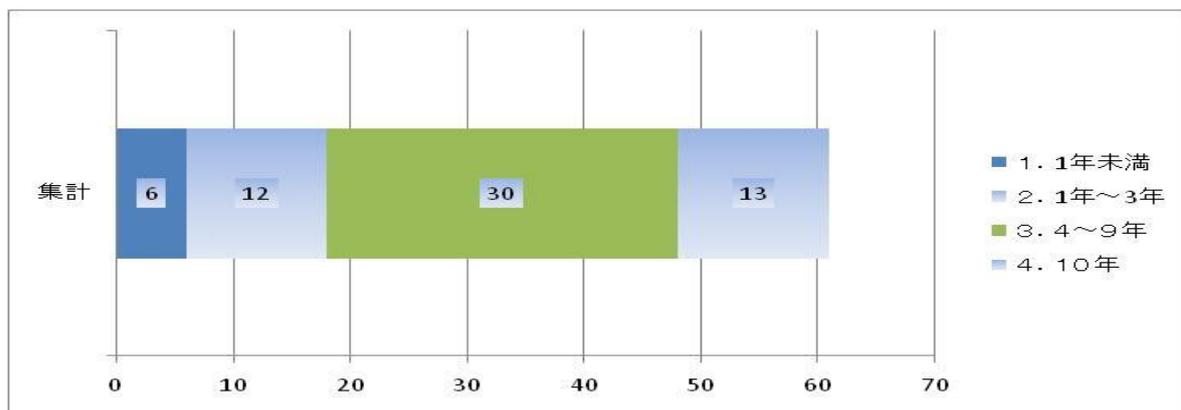


⑤子どもに本を手渡す担い手の意識

市立図書館司書へのアンケート調査

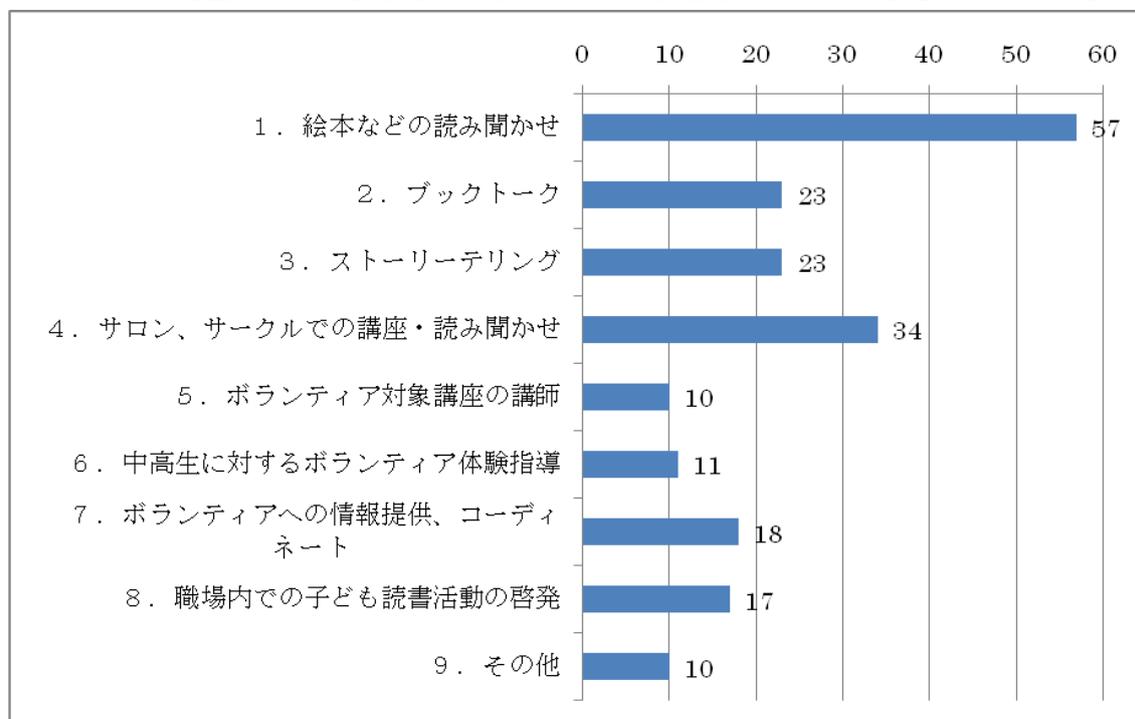
市立図書館でははなし会など子ども読書活動に関わっている職員61名にアンケート調査を実施しました。

・子ども読書の業務にかかわった期間について



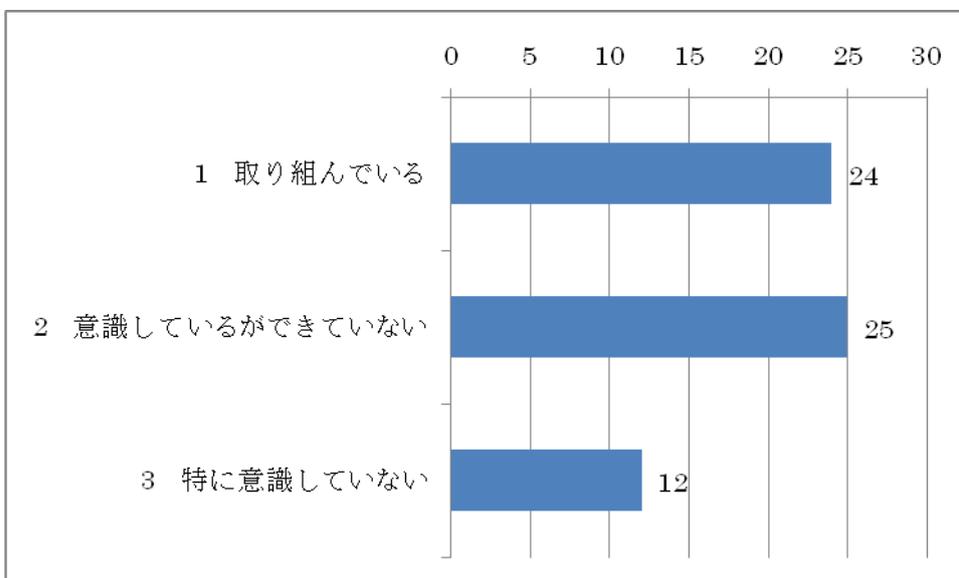
目盛の数値は人数。

・あなたが業務中に行っていることについておたずねします。あなたがこれまでに行った業務の内容はどのようなものですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



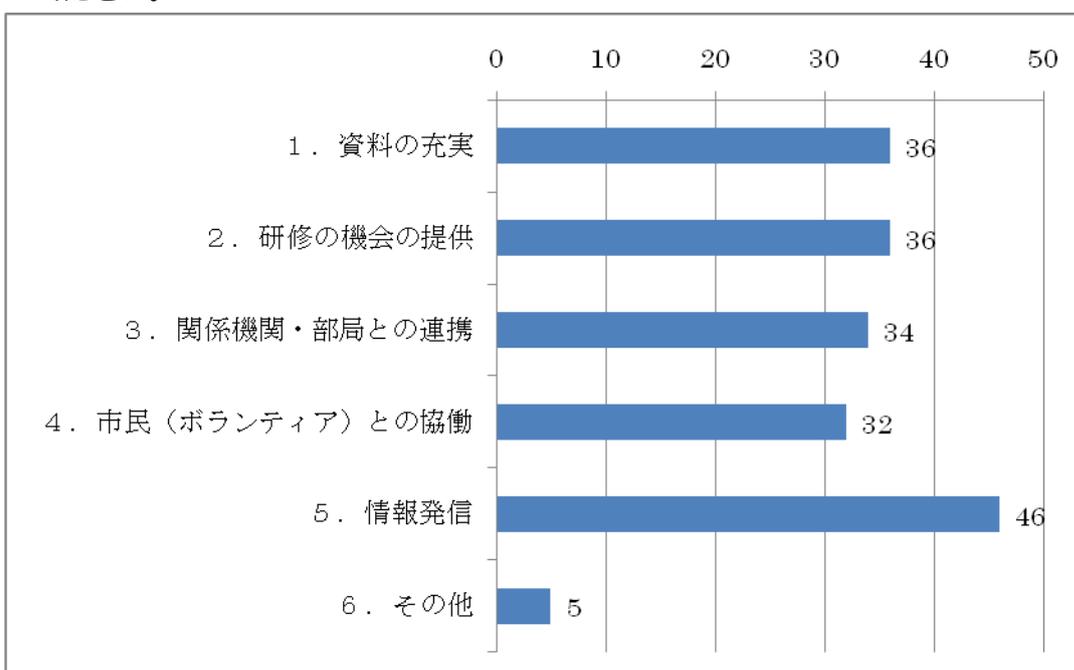
目盛の数値は人数。あてはまるものすべてをあげる複数回答の結果です。

・「豊中市子ども読書活動推進計画」を意識し、計画を視野に入れた業務に取り組んでいますか。



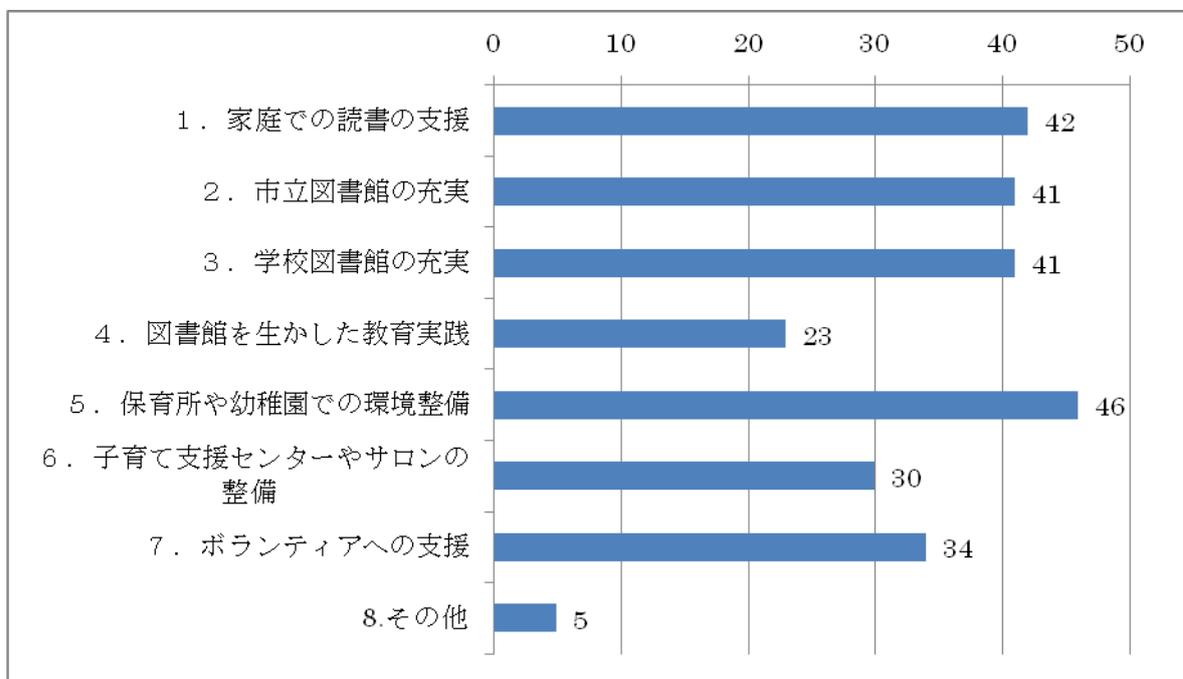
目盛の数値は人数。

・市立図書館や学校図書館の取り組みを充実するため、豊中市が今後さらに力を入れて取り組むべき課題はどのようなものがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



目盛の数値は人数。あてはまるものすべてをあげる複数回答の結果です。

・豊中のすべての子どもたちが読書を楽しむために今後さらに必要な取り組みは、どのようなものがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



目盛の数値は人数。あてはまるものすべてをあげる複数回答の結果です。

(アンケートより伺える傾向)

- ・子ども読書の業務に関わった期間が4年以上の職員が7割を占めており、多岐にわたる図書館業務の中で継続して子ども読書活動に関わっている。
- ・業務の中で絵本などの読み聞かせのほかに、子育てサロンやサークル、子育て支援センターでの絵本講座の取り組みに多くの職員が関わっている一方、ブックトークやボランティア講座の講師については関わる職員が減少する。
- ・推進計画を意識して取り組んでいる職員と、意識しているが業務に取り組めていない職員がほぼ同数となっている。
- ・今後の取り組みで必要な業務として「情報発信」を多くの職員があげている。
- ・豊中のすべての子どもが読書を楽しむために必要な取り組みとして、多くの職員が保育所や幼稚園などでの読書環境整備としている。